



映画でつながる。未来がはじまる。
By UNITED PEOPLE

2組 31番 名前 松田結菜

【映画】

バベルの学校

【レビュー】

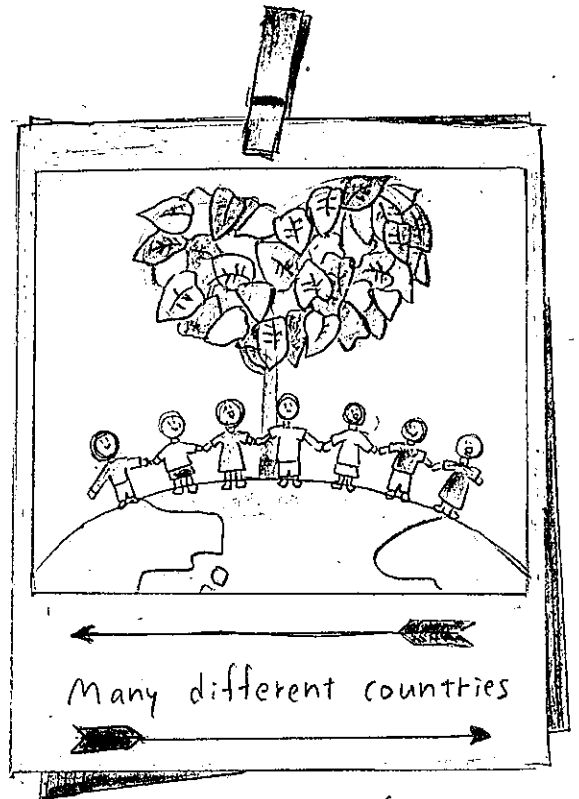
他者への理解とは何か。

私と同じくらいの年代の子たちが、宗教のこと、人種差別のこと、自分たちの境遇のことなど、様々なことを乗り越えようとしている姿にとても勇気もらいました。特に、宗教に関する話題で意見をぶつけ合う姿は、日本ではあまり見られない光景なので、印象に残りました。様々なバックグラウンドを持ち、様々な信仰を持っているからこそ、哲学的な議論ができるのだと思います。そんな生徒たち一人一人に向き合っていた先生も素晴らしかったです。

また、お互いがお互いの国の事情を、そうしたぶつかり合いを通して知ることによって、他者への理解が進むなど、多様性のメリットを強く感じました。

みんながみんな違うからこそ、それぞれの「個」の存在が価値あるものなのだと改めて気付かされました。

多様性が叫ばれる時代に、本当の意味での他者への理解とは何か、互いを尊重するとはどういうことなのか、そういうことを学び考える意味でも、重要なドキュメンタリー作品だと感じました。





映画でつながる。未来がはじまる。
By UNITED PEOPLE

3組 29番

名前 福田智大

【映画】

バベルの学校

【レビュー】

人の多様性と可能性

地球には様々な人がいる。国や地域によつて、経済的環境も違えば、社会も文化も宗教も、物事に対する考え方も変わるのとは当たり前のことだ。だがしかし、そのような存在するものが当たり前の違いで他人を見下したり、傷つけたりすることは到底許されるべきではないと思う。今回見た「バベルの学校」では、国籍や人種、経済問題で悩む24名の生徒が集まる適応クラスでの学校生活かえがかかれている。フランス語が母国語なまよりなことで上手くしゃべれないなどで普通科の人々からはかにされた。適応クラス内でも、違いに対して口論が目々起こり、たいていた。そんなクラスをアジット先生は見守り、導き、やがてクラスメイトは友情を育んでいき、そして協力して映画祭で賞に入るなど、クラスとして成長していく。

「共通点」「違い」、この2つの言葉は適応クラスの生徒のビデオで出てくる。これらは有りて当たり前のあり、違うからこそ個性、特徴が生まれる。それを互いに理解し、心で通じ合い、特徴を教育を通してのほしていく。こうすることで平和かつ人々が輝く世界が広がっていくと思う。